

## 国連未来サミットで Beyond GDP 指標策定に合意

～ウェルビーイングは Beyond GDP 指標の三本柱～

総合調査部 研究理事 村上 隆晃

### (要旨)

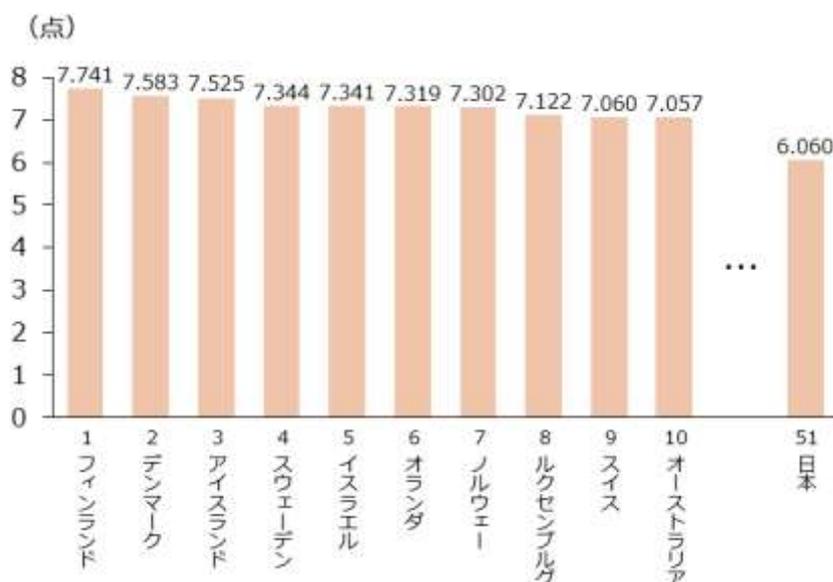
- 2024年9月に開催された国連未来サミットでは「未来のための協定」という合意文書が採択され、その中で「Beyond GDP」指標の策定がコミットされた。これはSDGsの目標達成を促進し、従来のGDPを補完する、人々のウェルビーイングや地球環境の持続可能性などを考慮した包括的な指標を開発する動きである。
- 背景には、GDPが経済成長を測る指標としては有効であるものの、社会や環境への負荷を十分に考慮できていないという長年にわたる課題がある。SDGsはその限界を補うために提唱されたが、その次の目標として国民が実感できる豊かさを表すBeyond GDP指標が国連未来サミットに向け議論されてきた。
- 国連未来サミットに至る過程では、Beyond GDP指標を開発するための行動として、(1)指標枠組み開発へのコミットメントの確認、(2)主要指標のダッシュボード開発、(3)統計能力の構築とデータ整備の3つが提言された。
- 具体的なBeyond GDP指標がどうなるかはこれからの議論によるが、国連による2022年の報告書では、Beyond GDP指標の案として、ウェルビーイングと主体性、生命と地球の尊重、不平等の縮小と連帯の拡大という3つのアウトカム達成を重視する枠組みが提案されている。
- 国連未来サミットを受け、今後、独立ハイレベル専門家グループが指標開発を進め、2025年の国連総会で報告される予定である。その後2030年のSDGs最終年を目標に、SDGsの次の目標に向けて議論が本格化していくことが予想される。
- 日本は、2024年の骨太方針で「Well-beingが高い社会の実現」を掲げるなど、ウェルビーイング向上を政策目標に掲げている。今後、国連主導のBeyond GDP指標策定に積極的に関与し、国際的な議論をリードしていくことが求められる。
- Beyond GDPは単なる経済指標を超えて、持続可能な未来を実現するための重要な指針となる。日本としても、この動きを捉え、国民のウェルビーイング向上と地球環境保全を両立させる政策を積極的に推進していく必要がある。

## 1. 世界幸福度報告で日本の幸福度は 50 位前後

毎年 3 月 20 日は国際連合（以下「国連」）が定めた国際幸福デー（International Day of Happiness）であり、「世界幸福度報告」（World Happiness Report、以下「報告」）が刊行され、各国の幸福度がランキング形式で公表される。ウェルビーイングについては、GDP のように国際的なコンセンサスのある測定法はまだないが、この幸福度ランキングは日本でも新聞報道等で取り上げられることが多く、ウェルビーイングに関連する指標としては認知度が高い。

今年も 2024 年の報告が発表され、フィンランドが 7 年連続で首位をキープするなど北欧勢が上位を占める傾向は変わらなかった（資料 1）。

資料 1 2024 年世界幸福度ランキング(2021～2023 年の 3 年平均)



(出所) Helliwell, J. F., Layard, R., Sachs, J. D., De Neve, J.-E., Aknin, L. B., & Wang, S. (Eds.). (2024).

World Happiness Report 2024. University of Oxford: Wellbeing Research Centre.より第一生命経済研究所作成

(注) この幸福度については、自分の生活について、0 から 10 までの 11 段階の「はしご」として捉え、考える最悪の生活をはしごの最下段である 0 段目、最善の生活を最上段である 10 段目として、現在自分がはしごの何段目にいるかを問う指標である

報告は毎年発表されるが、直近 3 年の調査結果を平均した数値が公表される

日本のランキングは 51 位であり、GDP で世界 4 位の経済大国としては低い順位に見える。村上（2023）でも触れているが、国連では 2030 年を期限とする SDGs の目標達成を促進し、国民が実感できる豊かさを表す「Beyond GDP（GDP を超えて）」という枠組みが議論されている。Beyond GDP の柱の一つとして、ウェルビーイングが取り上げられる可能性がある。

日本においても 2024 年の「経済財政運営と改革の基本方針」、いわゆる骨太の方針で 5 つの Vision の一つとして「誰もが活躍できる Well-being が高い社会の実現」が

掲げられるなどウェルビーイング向上は政策の主要なアウトカムとして取り上げられるようになってきている（資料2）。

資料2 骨太の方針 2024 年における 5 つのビジョンと Well-being の位置づけ



また、石破首相、岸田前首相の所信表明演説においても幸福度やウェルビーイングの向上を目指すことが掲げられている（資料3）。さらに石破首相は、国民の一人ひとりが豊かで幸せな社会の構築を目指すことを目標に、官民で総合的な「幸福度・満足度」の指標を策定し、共有するとしており、国際的な Beyond GDP 策定の動きに日本としても対応していくことを謳っている。

資料3 石破首相、岸田前首相の所信表明演説における幸福度、ウェルビーイングへの言及

石破首相所信表明演説（抜粋）

私は、国全体の経済成長のみならず、国民1人当たりのGDPの増加と、**満足度、幸福度の向上を優先する経済の実現を目標**とします。そのために、**官民で総合的な「幸福度・満足度」の指標を策定・共有し、一人一人が豊かで幸せな社会の構築を目指します。**

岸田前首相所信表明演説（抜粋）

持続的な賃上げに加えて、**人々のやる気、希望、社会の豊かさといったいわゆる「ウェルビーイング」を拡（ひろ）げれば**、この令和の時代において再び、日本国民が「明日は今日より良くなる」と信じることができるようになる。日本国民が「明日は今日より良くなる」と信じられる時代を実現します。

(出所)首相官邸HP「第二百十四回国会における石破内閣総理大臣所信表明演説(2024.10.4)」「第二百十二回国会における岸田内閣総理大臣所信表明演説(2023.10.23)」より抜粋  
 (注)太字・下線は当社

日本国民が腹落ちしてウェルビーイング向上に取り組むに当たっては、Beyond GDPでのウェルビーイングがどのような指標になるかは重要と考えられる。そこで本稿では2024年9月22～23日に開催された国連未来サミットを取り上げ、そこに至るまでの過程でBeyond GDPについてどのようなことが議論されたのか、サミットでは何が合意され、今後どのようなロードマップを辿る見込みかについて整理する。

## 2. 国連未来サミットへの過程で議論されたBeyond GDPの枠組み

グテーレス国連事務総長は2021年9月に“*Our Common Agenda*”報告書（以下、OCA）を提出し、SDGsを始めとする既存の国際的なコミットメント達成に向けた取り組みを加速すること、起こりつつある課題と機会に対処するために具体的な行動を起こすことを目的として国連未来サミットの開催を提案した。

外務省が作成した資料（資料4）によると、OCAのポイントとしてグローバル・ガバナンスの強化や若者・未来世代（将来の世代）との連携、国連の改革が挙げられている。さらにこれらと並ぶ位置づけで、③社会契約の刷新として、信頼、包摂・参加、人々の福祉（ウェルビーイング）と地球環境を考慮した、GDPを補完するBeyond GDP指標の作成を挙げている点が注目される。

### 資料4 “*Our Common Agenda*”報告書のポイント

- 「我々のコモンアジェンダ(OCA)」報告書: 国際社会が現在と将来の諸課題に対応するために取り組むべき課題と対応策についての包括的な提言。グローバルな連帯を呼びかけ。
- ① **グローバルガバナンスの強化**: 国際公共財の保護についての合意形成の構築。  
**未来サミット**の開催を提案。
- ② **若者及び未来世代への注目**: 若者及び未来世代との団結・連携の深化。
- ③ **社会契約の刷新**: 基盤として信頼、包摂・参加、人々の福祉と地球環境を考慮した指標 (GDPを補完 (= *Beyond GDP*))
- ④ **新たな時代に適した国連の確保**: 安保理改革及び総会の再活性化を含め、国連システム及び事務局の変革。

(出所) 首相官邸HP ([https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sdgs/entakukaigi\\_dai18/siryou1.pdf](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sdgs/entakukaigi_dai18/siryou1.pdf)) より一部修正  
(注) イタリック部分は筆者追記

OCAを受け、2023年3～9月にかけて、国連加盟国が「未来のサミット」の準備を進めるにあたり、議論を支援することを目的としたテーマ別政策概要レポートが公表された。全部で11のテーマ別レポートが公表され、Beyond GDPに関するレポートは4番目のレポートであった（資料5）。

資料5 “Our Common Agenda”<sup>11</sup> のテーマ別政策概要レポート



(出所)国連HP(<https://www.un.org/en/common-agenda/policy-briefs>)より第一生命経済研究所翻訳

「政策概要4：Beyond GDP」の目的は、Beyond GDP 指標が GDP を補完し、人々のウェルビーイングと地球のサステナビリティ向上に繋がる政策立案のための包括的なものとなるよう開発するプロセスを定めるものである。

GDP は経済成長を測る上で不可欠な指標であるが、不平等、レジリエンス、サステナビリティ、無償のケアワークといった環境や社会に関するリスクを捨象していること、資源の枯渇、環境劣化、生物多様性の損失といった負の外部性を適切に評価できないこと、デジタル化やデータ開発といった新たな現象を十分に捉えきれていないことなどから、真の持続可能な開発を測るには不十分という指摘がなされてきた。国家および国際的な政策立案、特に開発資金調達を支援するためには、より正確で包括的な指標が必要であることは以前から認識されていた。政策概要4では、GDP を超えるためのステップが提案されており、関連するイニシアティブを基盤とし、今後予定されている国民経済計算体系（注1）の改訂を最大限に活用することが提言されている。

SDGs との関連では、SDGs 自体がそもそも GDP の欠点を補うことを意識して策定された。中でも SDGs の目標17の19番目のターゲット（注2）は、2030年までに持続可能な成長を測定する補完的な指標の策定と途上国の能力開発支援を求めている。Beyond GDP は、政府の政策立案方法を根本的に変え、目標達成を加速させる投資を促し、誰一人取り残さないことを可能にすることを目指すものである。

そのための提言として、(1)Beyond GDP 指標枠組み開発へのコミットメントの確認、(2)主要指標の価値ダッシュボードの開発、(3)統計能力の構築とデータ整備の3

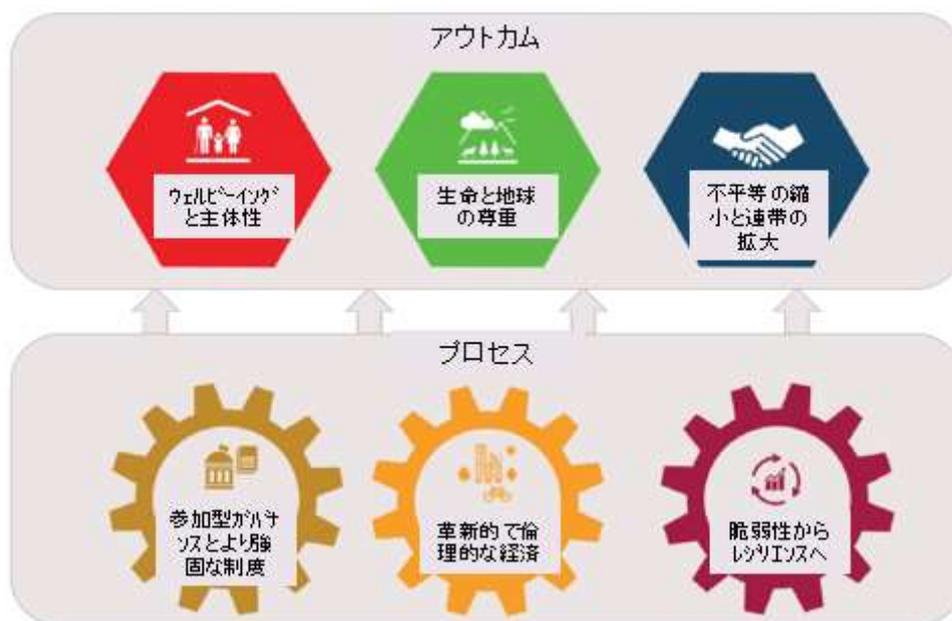
つを提示している。以下、順にその概要を確認する。

## (1) Beyond GDP 指標枠組み開発へのコミットメントの確認

国連加盟国は国連未来サミットで SDGs の次を担う指標の枠組み開発へコミットメントすることとされている（後述する通り採択された）。この枠組みがどのようなかはこれからの議論を待つことになる。

一つ参考になるものとして、国連が 2022 年に発表した「Valuing What Counts」報告書では Beyond GDP の基礎的な枠組みが提案されているので、紹介する。(a) ウェルビーイングと主体性、(b) 生命と地球の尊重、(c) 不平等の縮小と連帯の拡大、の 3 つのアウトカム（成果）を達成するよう設計される。また、(a) 参加型ガバナンスとより強固な制度、(b) 革新的で倫理的な経済、(c) 脆弱性からレジリエンスへの 3 つのプロセス要素に基づくべきである（資料 6、詳細は村上（2023）P2～5 を参照）。

資料 6 Beyond GDP の基礎的な枠組み



(出所) United Nations System (2022) “Valuing What Counts – United Nations System-wide Contribution on Progress Beyond Gross Domestic Product (GDP)” より第一生命経済研究所翻訳

## (2) 主要指標ダッシュボードの開発

国連加盟国は、Beyond GDP の進捗を把握可能な主要指標 (10～20 の指標) からなるダッシュボードを開発する独立したハイレベル専門家グループの設立が必要と指摘している。

ダッシュボードとしてどのような指標が選ばれるかは、今後の検討によるところで

ある。ただ、指標を選択する際の視点が前述の国連報告書で提案されているので、イメージアップのためにポイントを説明する（資料7）。

まず、ウェルビーイングと主体性については、健康・医学面のウェルビーイング、経済的なウェルビーイング、生活水準、社会的なウェルビーイング、自己開発、主観的ウェルビーイング、身体的自律性・安全性が挙げられている。生命と地球の尊重については、環境影響指標、自然資本、環境悪化と資源枯渇、世代間移転、生物多様性の損失が挙げられている。不平等の是正と連帯の強化については、結果の不平等、機会の不均等、世代間の不平等、所得と富の不平等、有給労働と無給労働の不平等が挙げられている。

資料7 Beyond GDP の指標を選択する際に考慮する視点

ウェルビーイングと主体性	生命と地球の尊重	不平等の是正と連帯の強化
健康・医学的なウェルビーイング(平均寿命、健康寿命、平均寿命の格差、出生時の男女比、早死死亡率など)	環境影響(生態系勘定、CO2排出量、大気汚染と健康への影響など)	結果の不平等(ウェルビーイングの尺度を年齢、性別、人種、所得などで細分化し、集団間の格差を評価など)
経済的ウェルビーイング(所得、雇用、富など)	自然資本(マテリアル・フットプリント、マテリアル・インテンシティ、採掘フロー、エネルギー消費、経済成長との関係を含む)	機会の不平等(富、教育、保健サービスへのアクセス、差別の蔓延、デジタル・デバイドなど)
生活水準(人権尊重、食料、住居、質の高い医療・社会サービスへのアクセス、教育達成度、ディーセント・ワーク、アンペイド・ワークの割合など)	環境悪化と資源枯渇	世代間の不平等(人間の能力を経時的に追跡し、現在のウェルビーイングの持続可能性を考慮)
社会的ウェルビーイング(家族、ワークライフバランス、社会とのつながり、充実した自由時間など)	世代間移転(自然・物理的資本の枯渇と減価償却を考慮)	ジニ係数とパルマ係数による所得と富の不平等(国内および国家間、男女間、など)、資本と労働間の所得分配など
自己開発(知識や技能、学歴、教育の質、職務経験など)	生物多様性の損失(開発中の多次元生物多様性指標など)	有給労働と無給労働の不平等
主観的ウェルビーイング(知覚的健康状態、安全/不安の感覚、生活満足度、被差別感を感じる人の割合など)		
身体的自律性・安全性(すべての人(特に女性、LGBTQの人)が自分のセクシュアリティを決定でき、性的暴力、ジェンダーに基づく暴力から解放されている程度)		

(出所)United Nations System (2022) “Valuing What Counts – United Nations System-wide Contribution on Progress Beyond Gross Domestic Product (GDP)” より第一生命経済研究所翻訳

### (3)統計能力の構築とデータ整備

さらに国家レベルでの統計能力開発とデータ収集を強化し、GDP を超える取り組みを支援し、目標に関する報告のギャップを埋めるために、統計能力開発とデータ・リソースが必要と指摘されている。

### 3. 国連未来サミットの「未来のための協定」でBeyond GDP指標策定にコミット

国連未来サミットでは、より安全で平和、持続可能で包摂的な世界を現在の世代だけでなく、将来の世代のためにも実現するための具体的な行動を誓う成果文書として「未来のための協定」(Pact for the Future、以下「協定」)が採択された。この協

定は、国連と加盟国が協力し、持続可能な開発と平和を実現するための具体的な行動計画として位置づけられている。

国連未来サミットには、国連加盟国の国家元首および政府関係者、オブザーバー、政府間組織、国連システム、市民社会、非政府組織から4,000人以上が参加し、協定の内容を深めた。さらに多様な関係者の参加を促すためのより広範な取り組みとして、9月20～21日にはアクション・デーが開催され、社会のあらゆる層を代表する7,000人以上が参加した。

協定は前文と5つの章、および2つの付属文書から成り立っている（資料8）。国連加盟国は協定を採択することで、「SDGsと気候変動に関するパリ協定を推進し、達成状況の改善を目指す」、「平和で包摂的、公正な社会を維持するための努力を倍加し、紛争の根本原因に対処する」、「科学技術やイノベーションが人々や地球環境に役立つよう協力する」、「若者の意見に耳を傾け、国家レベルや世界レベルでの意思決定に参加させる」といった行動を取ることにコミットを示した。

中でもV章の国際的な目標達成のための管理監視体制（グローバル・ガバナンス）の変革は、大きく3つの内容に分類できると考えられる。一点目は安全保障理事会を始めとする国連制度の改革であり、二点目は途上国の発展をよりサポートするための国際金融制度の改革である。三点目は国際的な協力枠組みの促進であり、その一点目にBeyond GDPの取組みが挙げられている。

## 資料8 未来のための協定の構成

### 前文

I：「持続可能な開発と開発のための資金調達」

II：「国際的な平和と安全」

III：「科学、技術、イノベーション、デジタル協力」

IV：「若者および将来の世代」

V：「国際的な目標達成のための管理監視体制（グローバル・ガバナンス）の変革」

付属文書 I：「グローバル・デジタル・コンパクト」

（デジタル協力とAIガバナンスに関する国際的枠組み）

付属文書 II：「将来世代に関する宣言」

（出所）United Nations System (2024) “Pact for the Future, Global Digital Compact and Declaration on Future Generations” より第一生命経済研究所作成

協定では56個の行動項目が盛り込まれているが、53番目の行動項目として、国内総生産（GDP）を補完し、それを超えるための持続可能な開発の進捗状況を測る枠組み（Beyond GDP）を策定することがコミットされた（資料9）。Beyond GDPは、持続可能な開発の経済、社会、環境など多面的な進捗を反映すべきであり、開発金融や技

術協力へのアクセスに関する指標も検討するとされている。検討に当たっては、ハイレベル専門家グループを設置し、その作業結果を2025年の第80回国連総会で発表するとされている。

## 資料9 Beyond GDPに関する記載

行動53：我々は国内総生産を補完し、それを超えるための持続可能な開発の進捗状況を測る枠組みを策定する。

○持続可能な開発は、均衡のとれた統合的な方法で追求されなければならないことを認識する。持続可能な開発の進捗状況の測定を早急に開発する必要性を再確認する。これらの指標は、**持続可能な開発の経済、社会、環境の側面における進捗を反映すべきであり、開発金融や技術協力へのアクセスに関する検討も含まれるべきである**。我々は、以下のことを決定する。

- (a) 持続可能な開発の限られた数の国が所有し、普遍的に適用可能な**指標を策定するための独立したハイレベル専門家グループ**を設置するよう事務総長に要請する。加盟国および関連ステークホルダーと緊密に協議し、統計委員会の作業を考慮し、持続可能な開発のための2030アジェンダの持続可能な開発目標およびターゲットのための世界的な指標枠組みを基に、持続可能な開発の限定的な数の国主導かつ普遍的に適用可能な指標を開発し、その**作業結果を第80回国連総会で発表**するよう事務総長に要請する。
- (b) 独立したハイレベル専門家グループの作業完了後、統計委員会、国際金融機関、多国間開発銀行、地域委員会など、関連ステークホルダーと協議し、持続可能な開発の進捗状況を測る指標について、国内総生産(GDP)を補完または超えるものとなるよう、事務総長ハイレベル専門家グループの提言を考慮しながら、**独立ハイレベル専門家グループの作業完了後に国連主導の政府間プロセスを開始**する。

(出所)United Nations System (2024) “Pact for the Future, Global Digital Compact and Declaration on Future Generations” より第一生命経済研究所翻訳

## 4. 2030年に向けた今後の道のり

最後に2030年のSDGs最終年に向けた今後のBeyond GDPに関するマイルストーンを確認する(資料10)。

2024年は国連未来サミットでBeyond GDP指標策定への大枠決議がマイルストーンに置かれており、予定通り決議された。2025年には30年ぶり2度目の国連Social Developmentサミットが開催される。前章で見た独立ハイレベル専門家グループの作業結果が報告され、Beyond GDPの内容が示される見込みである。SDGsの次の目標、すなわちポストSDGsがどのようなものになるか現時点では不明であるが、Beyond GDP指標はその行方に大きな影響を及ぼすものと考えられる。

こうした国際的な議論に向けて日本としての対外発信を行っていくために、同じ年に大阪・関西万博におけるテーマウィークの最終週でポストSDGsについて議論する予定である。2027年には国連SDGサミットが開催され、ポストSDGsの具体的な内容について議論が始まるとみられる。

ポストSDGsのアジェンダ設定に向けて日本が対外発信していくに当たっては、関西万博の場も含めて2027年までの期間に議論を重ねていく必要がある。2030年にはSDGs最終年を迎えるということで、ポストSDGsについて決議がなされると考えられる。日本でのG7開催が予定されており、日本としてポストSDGsの策定に向けてどのような貢献が可能か問われるといえよう。

ウェルビーイングを含むBeyond GDPは単なる経済指標を超えて、より持続可能な

# illuminating Tomorrow

未来を実現するための重要な指針となる。日本としても、この動きを捉え、国民が経済や社会の豊かさを実感できるようウェルビーイングの向上と地球環境保全を両立させる政策を積極的に推進していく必要がある。

資料 10 ポスト SDGs に向けた今後のマイルストーン



(出所) 第一生命経済研究所作成

以上

## 【注釈】

- 1) 国民経済計算体系とは、一国の経済活動を体系的に記録するための国際的な会計基準である。国内総生産（GDP）などの指標を通じて、経済の全体像を把握するのに用いられる。国連が定めた基準に基づき各国で統一的に作成され、国際比較が可能な指標となっている。
- 2) SDGs 目標 17 の 19 番目のターゲットは、次を参照。  
<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/17goals/17-partnerships/>

## 【参考文献】

- Helliwell, J. F., Layard, R., Sachs, J. D., De Neve, J.-E., Aknin, L. B., & Wang, S. (Eds.). (2024年3月). “World Happiness Report 2024” University of Oxford: Wellbeing Research Centre.
- United Nations (2021年8月) “Our Common Agenda”
- United Nations (2023年5月) “Our Common Agenda Policy Brief 4 Valuing What Counts: Framework to Progress Beyond Gross Domestic Product”
- United Nations (2024年9月) “Pact for the Future, Global Digital Compact and Declaration on Future Generations”
- United Nations System (2022年8月) “Valuing What Counts - United Nations System-wide Contribution on Progress Beyond Gross Domestic Product (GDP)”
- 内田由紀子 (2020年5月) 「これからの幸福について 文化的幸福感のすすめ」
- 鈴木寛 (2023) 「日本を Beyond GDP 先進国へ～ひとり一人が自らの意思で自身のキャリアや生き方を選択できる日本～」『日経 Well-being Initiative 社会指標委員会 (2023年9月12日)』
- 第一生命経済研究所 (2023) 「ウェルビーイングを実現するライフデザイン」『ライ

フデザイン白書 2024』

- ・村上隆晃「SDGs の次を議論する国連未来サミット～ウェルビーイングが次のグローバル・アジェンダに～」(2023年11月)  
(<https://www.dlri.co.jp/report/1d/295404.html>)
- ・村上隆晃「世界も注目を始めた東アジアの幸福観～「世界幸福度報告」2022年版より～」(2022年5月)  
(<https://www.dlri.co.jp/report/1d/187830.html>)
- ・村上隆晃「日本のウェルビーイング向上には賃上げも重要～「世界幸福度報告」2023年版より～」(2023年5月)  
(<https://www.dlri.co.jp/report/1d/250745.html>)
- ・村上隆晃「【1分解説】国連未来サミットとは？」(2023年6月)  
(<https://www.dlri.co.jp/report/1d/253572.html>)